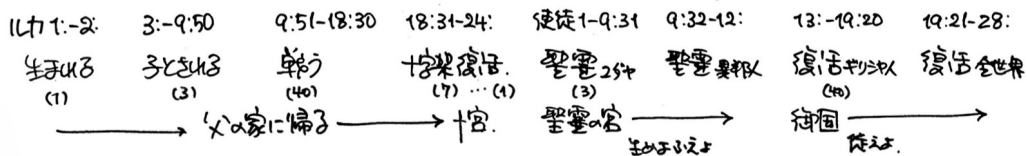
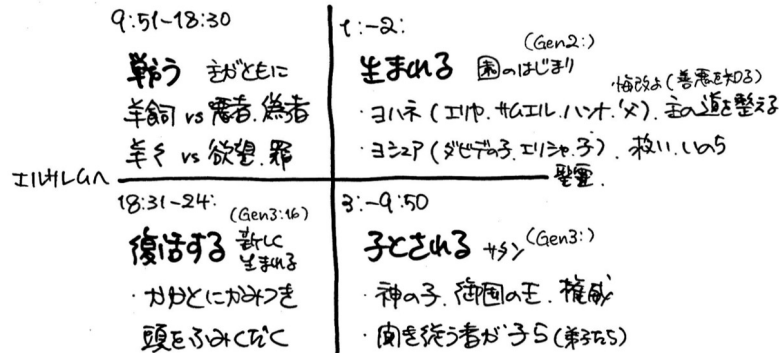




# ルカ福音書1-24章

ルカ 1:-24: 聖霊によつて生まれた子が、復活して勝利する  
X417 437.死 2017.7.6



ルカ福音書の全体の大きな流れを確認しました。1章から24章。聖霊によって生まれた子、メサイヤが復活して死に対して勝利するというテーマです。

永遠の命がテーマのルカ福音書。4つの段落に分かれるでしょうということ、5年前にも分析しました。ダビデの子がダビデの町に生まれる。知恵に満ちて御霊に満たされて父の家に帰っていく。父の家が、悪霊とか金持ちでいっぱいになっていますから、追い出して父の家に帰ります。帰る、帰るとするのが言葉として多いのです。帰ること、エルサレムとか宮。それがルカ福音書の特徴的な言葉です。聖霊も多いです。その3つがとても目立つ書物です。

生まれて、バプテスマを受けて子にされて、戦って勝利を得る。その勝利を得るところが、十字架と復活のところ。ここが新しく生まれるということで、前回見ていたけれど、だいたいそれで良いかなと思います。

最初に生まれるヨハネとヨシヤというこの二人の重要な人物。この二人を通して、新しいエデンの園が作られていくかのようなストーリーです。「主の道、主を知ること、悔い改めて主を知りなさい」ということを教えるヨハネと、「そうするなら永遠の命、救いが与えられますよ」ということを御霊のバプテスマによってなすことになるダビデの子、ヨシヤというのが生まれましたということが、園の始まりのようなものです。

始まるとサタンが来ます。「神の子なのか」ということを最初から言われます。神の子なのかということが試されて、神の子である、御国の王の権威を持っている、その教えを持っているということ。

それと、その教えに聞き従う者たちが子らですよ、子どもたちですよ、ということが、3章から9章50節まで。これは、創世記の3章みたいな感じです。それで、戦います。羊飼いは悪者、にせ者、偽り者と戦います。羊たちは、欲望、罪と戦っています。この戦いがある、勝ちます。復活します。創世記の3章16節のように、かかるとに噛み付くけれども頭を踏み砕くというのが、ここにありますので、新しい命を生み出す園の始まり。サタンとの戦い。そして、新しく生まれるというような構造になっているだろうと思います。

生まれて、子とされて、戦って、勝利する。父の家に帰る。今度、この新しい父の家が全世界に広がっていく。帰ってきて広がっていく。ガリラヤで始まって、ユダヤ、サマリヤを通過してエルサレムに行きます。エルサレムから始まって、ユダヤ、サマリヤを通過して地の果てまで行きます。そして、さらには、それが全世界に広がっていくということ。地の果てとは、海のあたりのところが地の果てということだと思います。そして、広がっていく。帰ってくるものと、広がっていくことの終わりのところと始まりのところに、十字架の言葉と御霊。

ですから、ルカ福音書全体が、祭りの1,3,40,7の構造になっていますけれど、全体はクライマックスの過越の祭りですから、1月の祭りの成就です。3月の祭りの成就から始まって、40年の戦いに入っていくというのが、ルカ福音書の2つの大きな書物の役割になっていると思います。

ここは、父の家に帰るのですが、古い地上のエルサレムの神殿は裁かれて、ご自分の体である宮が3日目によみがえります。そのことによって、新しい聖霊の宮、教会が作り上げられていって、それが全世界に広がっていくという宮が変わるのです。新しい神殿、新しいエルサレムが築かれていくというストーリーで、復活の勝利が現されていくというのが、ルカ福音書の全体の流れだろうと思います。